

国土交通省九州地方整備局長 村山一弥様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 緒方俊一郎
岐部明廣
美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

球磨川の治水協議に関する抗議と公開質問(追加)

川辺川ダム問題が再燃した根源は、貴省等による球磨川豪雨検証委員会の「川辺川ダムがあれば人吉の浸水面積を6割減らすことができた」との検証結果です。しかし、その検証結果や内容を、貴省は住民に一切説明しようとはしません。なぜ説明しないのでしょうか。質問されるのを恐れているのでしょうか。結論をなぜ急ぐのでしょうか。ただ報道を通して、川辺川ダムの「効果」だけが一人歩きしている状況です。

10月12日に貴職あてに提出しました、「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」に対し、熊本県は「後日文書で回答する」と口頭で述べたにもかかわらず、貴省からの回答は、いまだありません。

今回の豪雨災害の検証や今後の治水対策は、豪雨被災者のためになされるものであるはずですが、ところが、今後の治水対策を検討する「球磨川流域治水協議会」のメンバーからも、被災者や住民は排除されています。説明責任や住民参加がなされぬままにことを進めると、後になって対立や混乱が生じ、球磨川の治水対策をさらに遅らせることになる懸念されます。未来に禍根を残さないためにも、球磨川の治水議論は住民参加でなされるべきです。

貴省は2008年8月に、熊本県知事に流水型の川辺川ダム(穴あきダム)を提案しました。

全国で運用されている流水型ダムの「穴」の上流側には、穴(トンネル)の中に流木等が入らないように、すき間が20cmのスクリーン(金網のような柵)が設置されます。川辺川ダムの集水域は470km²もあり、洪水時は大量の流木や岩石、土砂などがこの穴に押し寄せ、穴を覆うスクリーンがふさがり、洪水調節できなくなることが十分考えられます。

また、流水型の川辺川ダムの穴(トンネル)の長さは100m程度になると推測され、魚族などの遡上はできなくなります。洪水時はダムの上流に砂や礫を大量にため込み、下流への砂や礫の供給はなくなり、ダムの下流は岩盤の露出や濁りの長期化など、河川環境に致命的なダメージを与えます。

川辺川上流にある「穴あきダム」である朴ノ木砂防ダムは、洪水時に大量の土砂をため込み、洪水が終わった後も流水型ダムであるために、ダム上流にたまった土砂が露出し、たまった土砂が流れ出し、長期間下流の川辺川と合流後の球磨川を濁しました。高さ25mの朴ノ木砂防ダムでもこの有様です。高さ108mの流水型の川辺川ダムができれば、濁りは比較にならないほど長期化することが容易に考えられ、川辺川は「死の川」となります。

今後なされるべきことは、治水に関する議論だけではなく、地域の復興に関する議論です。現在の球磨川・川辺川があってこそその地域の復興です。今後、治水の議論を進める上でも、

復興を前提とした議論がなされるべきです。

10月26日に提出しました「球磨川流域治水協議会に関する抗議と要請」で要請した4項目を実施しないまま、貴省は球磨川流域治水協議会を開催しました。球磨川の治水協議に関し、説明責任や住民参加がなされていないことに強く抗議します。

10月12日に貴職あてに提出しました、「球磨川豪雨検証委員会に関する公開質問状」に対する文書での回答を、問題をすり替えたりすることなく、住民の疑問に対し真摯に文書で回答し、対面で説明することを強く要請します。さらに、下記7点について、公開質問を追加します。住民が理解できるように、真摯に回答されることを強く要請します。

記

1. 従前の工事実施基本計画にある掘削面まで河道掘削した場合の人吉地点の流下能力とその算定根拠を明らかにすること。
2. 10月20日付の国交省八代河川国道事務所ホームページ「参考資料」の、「流量の推定について」48ページ等に瀬戸石ダム地点の堤防高、不等流計算の結果、水害痕跡などが掲載されているが、これを見ると今回の豪雨で瀬戸石ダムが洪水水位を大きく押し上げているのは明らかである。瀬戸石ダムは撤去すべきではないのか。
3. 川辺川ダムを流水型のダムとした場合、川辺川ダムの集水域は470km²もあり、洪水時は大量の流木や岩石、土砂などがこの穴に押し寄せ、穴を覆うスクリーンがふさがり、洪水調節できなくなるのではないのか。
4. 流水型の川辺川ダムの穴（トンネル）の長さは100m程度になると推測され、魚族などの遡上はできなくなるのではないのか。
5. 流水型の川辺川ダムは洪水時、ダムの上流に砂や礫を大量にため込み、下流への砂や礫の供給はなくなり、ダムの下流は岩盤の露出や濁りの長期化など、河川環境に致命的なダメージを与えるのではないのか。
6. 流水型の川辺川ダムは、洪水時に大量の土砂をため込み、洪水が終わった後も穴あきダムであるために、ダム上流にたまった土砂が露出し、たまった土砂が流れ出し、長期間下流の川辺川と合流後の球磨川を濁すのではないのか。
7. 様々な流量の洪水が、河川形態の多様性に深く関わっている。また、流量が大きく変化することで、河川の中に樹木が繁茂することを抑制している。洪水のこのような作用を、流水型のダムは奪ってしまうのではないのか。

以上

【本文書に関する連絡・問合せ先】

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
熊本市西区島崎 4-5-13 中島康 電話 090-2505-3880